

難波田城だより

—難波田城公園・難波田城資料館ニュース—

平成 23 年 12 月 1 日発行
編集・発行/富士見市立難波田城資料館
第 50 号
NEWS from NANBATAZYO

水害が起きないように願って

市民学芸員 なかむら 中村 みのる 稔



転入前の水谷東地区水害（昭和 41 年）

水谷東 1 丁目に転入する前、住宅を建てる準備のために宅地の様子を見に来た時、住宅地に入る所の電柱の地面から 1 メートル強の所に白い印が付けられていた。洪水の時の水位が印の所まで上がった事を示したものだ。

そこで家の土台を 1 メートル高くした。庭に土を入れて盛土もした。そのためか近所の家が床上・床下浸水の被害を受ける豪雨でも玄関先までで、どうにか浸水を免れている。最近は敷地内に土盛をしている家とか床を高くしている新築家屋が増加している。

家屋を水害から守ることは進んでいるが、道路は旧河川からの溢水（いっすい）によって、マンホールから下水が吹き出したりして、河川と同様になり、自家用車を浦所バイパス（国道 463 号線）などに避難させたこともある。

旧新河岸川の溢水による水害が多く、台風や梅雨期の集中豪雨の時の水害も心配の種である。旧河川がどの程度の水量まで大丈夫なのか、豪雨の時には旧河川と新河岸川の水量を注意深く見張っていなくてはならなかった。新河岸川の水量が増加して、旧河川に逆流しそうになると、住民たちで



浸水後、ポンプで水を逃がす職員（昭和 61 年頃）水門を閉じて、ポンプを作動させて旧河川の水を新河岸川に逃がし、旧河川の水量を調整して水害が起きないように努力したことを覚えている。

水谷東公民館の公民館だより編集の仕事を手伝っていた時に、県の土木事務所に出かけて、荒川と新河岸川の水害対策について色々勉強させてもらった。その時の県の担当者の話によると、荒川は 100 年に一回の豪雨にも堪えられる堤防を造る、新河岸川などの中小河川も豪雨の時は学校の校庭を一時的に水のたまり場にして河川への雨水の流入量をおさえるなどの対策が進行している、との説明を受けたが、その後どうなっているのか未確認である。



旧河川周辺の道路浸水状況（平成 3 年）

※写真は全部当館蔵です。

こんなお宝がありました 資料館編

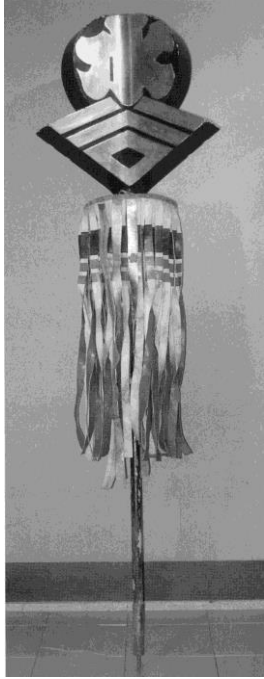
水谷の「まとい」（纏）

「火事と喧嘩は江戸の華」といいます。火事場の主役は鳶（とび）職人を中心とした町火消、中でも花形はなんとと言っても纏持ちでしょう。吹流しを細かく縦に裂いたような布又は革製の「馬簾」（ばれん、幡連・芭連とも）を回転させてふりかかる火の粉を防ぎながら最後まで火事場に踏み留まる姿は粋な江戸っ子の憧れの的だったでしょう。江戸時代の「いろは四十八組」の町火消では、纏や幟（のぼり）を定めて各組の目印にしました。

近代になると市町村ごとに消防組が設置されました。富士見市史には明治から昭和初期にかけて水谷消防組第三部が当時の水谷村だけでなく近隣の町村（当時の鶴瀬村・南畑村のほか三芳村・志木町等）に出勤した記録が掲載されています。

当資料館収蔵の纏は昭和五十七年（一九八二年）まで富士見市役所水谷出張所に保管されていたものです。頭部は「水谷」と金文字で大きくデザイン化された三面構成になって立体感を出しています。馬簾は革製で白地に黒・赤の横縞で飾られています。残念ながら、当資料館収蔵の纏と市史掲載資料との関係は分かりませんが、先人達が地域を守るため、この纏を先頭に颯爽（さっそう）と消火活動に出勤した凛々（りりり）しい姿を思い浮かべてみてください。

活動に出勤した凛々（りりり）しい姿を思い浮かべてみてください。



水谷のまとい

に代えればお正月飾りにもなります。

製作時間は 30 分程、今年は 12 月 10 日に行ないます。世界に二つと無い、自分のリース作りを一緒に楽しんでみませんか。

おもしろ・なつかし体験 ③4

クリスマスリースづくり

このコーナーは、難波田城公園での体験事業やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

クリスマスは、十二月の行事としてすっかり定着しました。これに伴い、玄関にクリスマスリースを飾る家も増えました。難波田城では、園内の樹木や市民学芸員が採集した自然の材料を使用して、クリスマスリース作りを行なっています。

園内の柳の枝で輪をつくり、金や銀色に着色した松ボックリなどを基調に、紅葉した南天・枯れた実の付いた野バラ等その時に採取した素材やサンタクロース柄の包み紙で包装されたアラシ、イメージキャラクターの「なんばった」を加え、カラフルに仕上げます。飾りを松・笹・南天の実など



使用する園内の柳の木



柳の木で作った輪



昨年のリース、制作途中



オリジナルリースの完成

人の創った道具★人の使った道具

このコーナーでは、当資料館所蔵・展示資料を紹介
します。今では使われなくなった道具からわたした
ちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

中世の多門氏館跡

今回は、平成 23 年 10 月 22 日から 12 月 25 日
まで開催されている秋季企画展『遺跡が語る富士見
市の中世』に関わる資料を紹介しします。

多門氏館跡とは？

多門氏館跡（おかどしやかたあと）は、宿（し
ゅく）遺跡とも呼ばれ、諏訪小学校と富士見中
学校の間にあります。現在、宅地化が進み、土塁
の一部を残すのみとなってしまいました。

近世初期の天正 18 年（1590）、旗本の多門平次
郎成正（へいじろうなりまさ）が、徳川家康から
鶴馬に知行地をもらいました（「知行宛行状」）。そ
の後、鶴馬字宿（諏訪 2 丁目）の地に建てられた
のが多門氏館や浄円寺になります。そのため、多
門氏館跡は近世の館跡として考えられてきました。



中世から館があった？

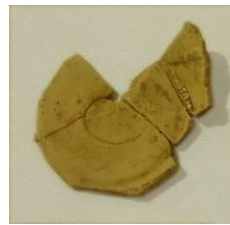
昭和 55 年（1980）、富士見市は、市史編さんの
ため上の図の 1 の部分を一部だけ掘り下げて調査
しました。その際、堀の中から古銭や板碑が出土
しましたが、中世の資料は 2～3 点であったため、
はっきりと中世の遺跡とは判断できませんでした。
しかし、その後、中世末期に鶴馬に宿場をつくら
せるとする古文書や浄円寺に板碑があることから、
中世にも人がいた形跡がわかってきました。

平成 21 年からの発掘で、中世と関わりがありそ
うな遺構（堀跡、井戸跡等）も見つかり、ほうろ
く、板碑片、かわらけなどが出土しました。

出土したかわらけ

近年、かわらけ（素焼きした土器の皿）の研究
が進み、いくつかの特徴をもったものは、大名に
ついた職人集団がつくったものとして注目されて
います。特に、富士見市周辺地域を治めた扇谷上
杉氏（おうぎがやつうえずぎし）のかわらけと、
対立していた山内上杉氏（やまのうちうえずぎし）
のかわらけについては、研究が進んでおり、関東
各地で報告がされています。

今回の展示を期に、最新資料と以前出土した資
料を再検証した結果、皿の内側に渦巻き模様のある
かわらけが見つかりました。渦巻き模様は、扇
谷上杉氏のかわらけと考えられているものです。



宿遺跡の破片



難波田城跡の破片



うずまき
模様

市内では難波田城跡で確認されていました。難波
田城跡に関しては、扇谷上杉氏が川越にいた間、
勢力下にあることがわかってきていましたが、こ
のかわらけもそれを裏付ける証拠となります。

宿遺跡周辺は中世の資料がありますが、今まで
どの勢力が統治していたのかわかっていませんで
した。しかし、今回、渦巻き模様のかわらけが確
認できたことで、扇谷上杉氏の勢力が入っていた
可能性が高くなりました。

また、この他にも墨書（墨で字をかいた）のあ
るかわらけが見つかりました。欠けたり、薄くな
っているため、はっきりと文字が読めないため、
その詳細はわかりません。



墨書付きかわらけ

2 枚とも同じ字が書かれてい
ます。右は墨書の拡大。



冬のイベント予定

●古文書講座(中級編)

江戸時代の古文書を解説しながら、当時の歴史や文化を学びます(全3回)。

日時 1月22日(日)・29日(日)、2月5日(日)

時間は、いずれも午前10時～正午

会場 難波田城資料館講座室

講師 栗原健一氏

参加費 500円

定員 20人

●子ども書初め練習会

書初めの本番にそなえ、練習しましょう。書道サークルの方々による指導もあります。予約はいりませんが、午後2時までに入場してください。

日時 12月23日(祝)午前10時～午後3時

会場 難波田城資料館講座室

持ち物 書道セット、書き初め用紙

参加費 無料

協力 硯友会

●ふるさと体験「正月飾りづくり」

家の玄関に飾る、正月飾りを作ります。

日時 12月25日(日)午前の部 10時～正午

午後の部 1時半～3時半

定員 各15人(申込み順。市内在住・在勤者のみ)

参加費 1,500円(材料代)

持ち物 はさみ

申込み 12月1日(木)午前9時から直接又は電話で

指導 吉川節男氏

●ちよっ蔵市

もちつき実演と販売

(難波田城公園活用推進協議会主催)

年末恒例の餅つきと餅の販売を行います。餅つきの体験もできます。

日時 12月23日(祝) 午前11時から

会場 旧金子家住宅

《ちよっ蔵市1・2月の予定》

平成24年1月22日(日) マユ玉だんご

2月26日(日) 手打ちうどん

※売り切れ次第終了です。

●企画展情報

平成23年秋季企画展

「遺跡が語る富士見市の中世」

富士見市の中世遺跡を写真や遺物、図などで解説しています。今までの展示で紹介していない中世の出土品や最新の調査成果などを紹介しています。

会期/10月22日(土)～12月25日(日)

会場/難波田城資料館 特別展示室

関連講演会

「宿遺跡(多門氏館跡)の最新報告」

平成23年12月18日(日) 午後1時～3時

会場 難波田城資料館 講座室

宿遺跡の最新の調査成果を紹介します。

講師/隈本健介氏(生涯学習課学芸員)

定員/約30名(申込順)

申込み/直接または電話で



年末年始の休館のお知らせ

資料館と古民家は12月26日(月)から1月5日(木)まで休館です。公園は無休で、午前9時から午後5時まで開園しています。

<冬季の開園時間について>

10月から3月の間、公園の開園時間は午後5時です。資料館と古民家の閉館も午後5時です。

編集後記

「難波田城だより」もついに50号を発行することになりました。難波田城資料館の準備室の頃から発行を始め、編集に市民学芸員も加わりました。人事異動などにより担当職員も変わりましたが、難波田城だよりは変わらず発行され続けています。

今年は、震災の影響による難波田城公園まつりの中止などがありましたが、これからも難波田城公園や資料館の様子、市民学芸員の活動や体験したことを発信する広報誌として、発行し続けたいと思います。そして、みなさんに楽しんでいただける公園・資料館として広く知られることをめざします。



編集・発行/富士見市立難波田城資料館

〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1 Tel. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

富士見市役所公式ホームページ <http://www.city.fujimi.saitama.jp>

◆資料館休館日/月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土曜日・日曜日を除く)、年末年始 開館時間/午前9時～午後5時

◇公園休園日/なし 開園時間/午前9時～午後6時(4月～9月) 午前9時～午後5時(10月～3月)